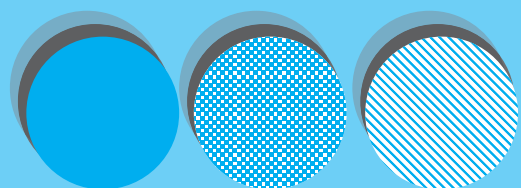


## 第 2 章





## 第2章 高齢者を取り巻く現状と課題

### 1. 高齢化の進展

#### (1) 高齢者人口の推移

本市における65歳以上の高齢者人口は、平成23年9月末現在25万1,391人で高齢化率は17.4%となっています。また、本市の高齢化率は全国平均に比べると低いものの高齢化は着実に進んでいます。

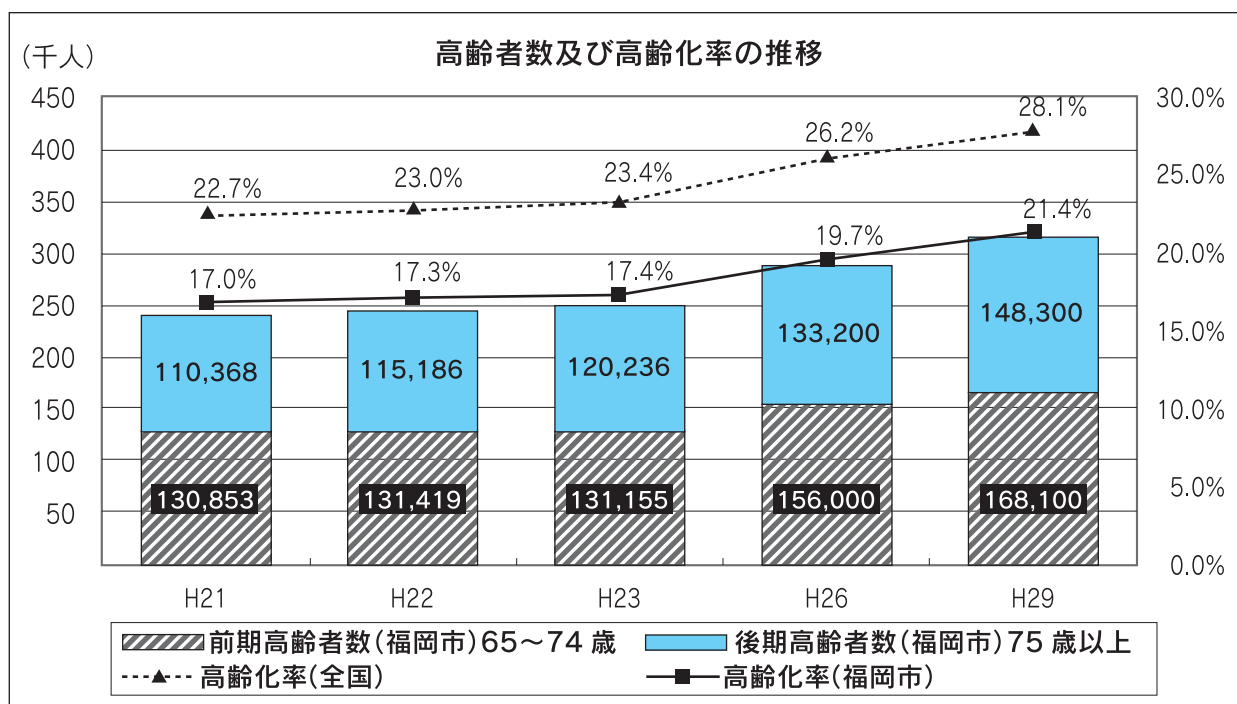
将来推計では、平成29年には高齢者人口が31万6,400人で高齢化率が21.4%となり、高齢化が一層進展していきます。

(単位：人)

		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H29
総人口		1,416,960	1,428,176	1,443,866	1,450,900	1,458,100	1,464,600	1,478,100
65歳以上		241,221	246,605	251,391	263,200	275,700	289,200	316,400
内訳	前期(65～74歳)	130,853	131,419	131,155	137,700	146,300	156,000	168,100
	後期(75歳以上)	110,368	115,186	120,236	125,500	129,400	133,200	148,300
高齢化率		17.0%	17.3%	17.4%	18.1%	18.9%	19.7%	21.4%

※ H21～H23は9月末現在の住民基本台帳と外国人登録総数。

※ H24～H29は保健福祉局でコーホート要因法を用いて推計した数値。



※ 全国：H21～H22は総務省統計局による10月1日現在の推計値。

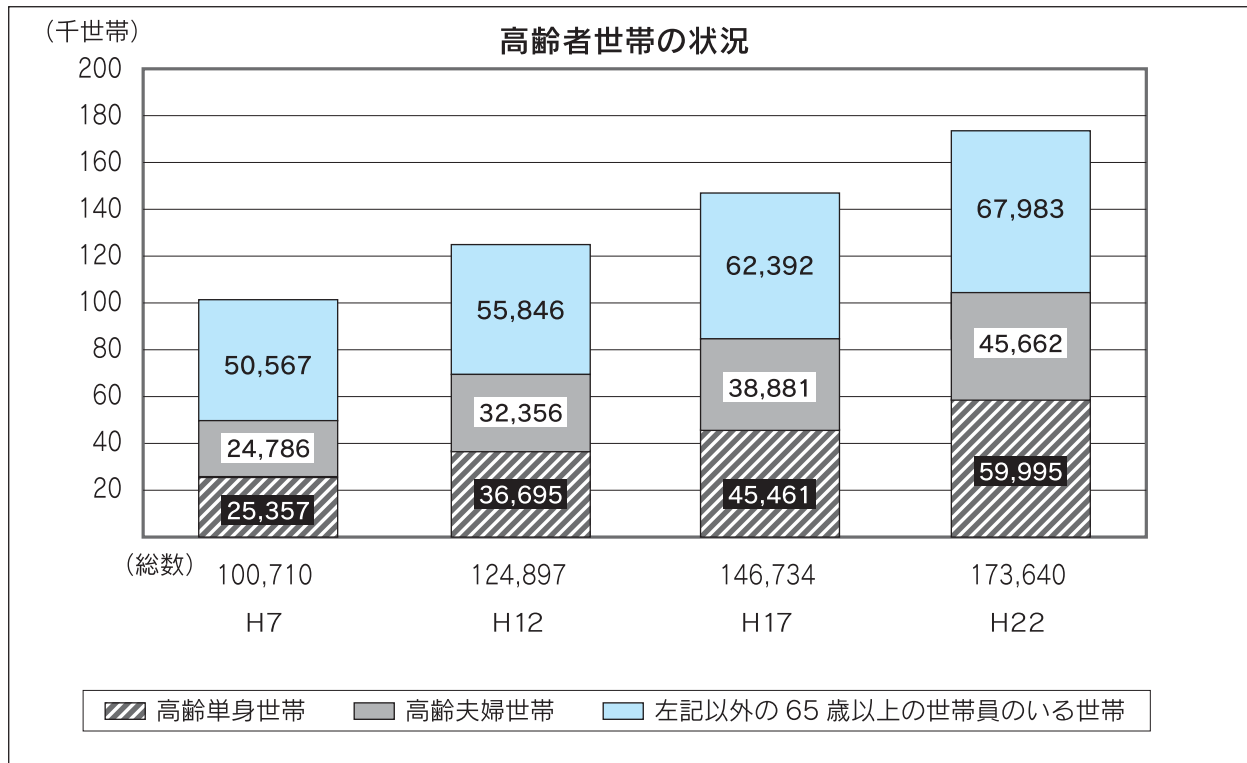
H23～H29は国立社会保障・人口問題研究所による推計値。

※ 福岡市：H21～H23は9月末現在の住民基本台帳と外国人登録総数。

H24～H29は保健福祉局でコーホート要因法を用いて推計した数値。

## (2) 高齢者世帯の推移

平成 22 年国勢調査によると、本市の 65 歳以上の世帯員のいる世帯は 17 万 3,640 世帯（一般世帯全体に占める構成比 24.6%）、高齢者単身世帯は 5 万 9,995 世帯（同 8.5%）、高齢夫婦のみの世帯は 4 万 5,662 世帯（同 6.5%）となっており、いずれも年々増加傾向にあります。



- ※ 国勢調査による。
- ※ 高齢単身世帯は、65 歳以上の 1 人のみの一般世帯。
- ※ 高齢夫婦世帯は、夫が 65 歳以上で妻が 60 歳以上の夫婦 1 組のみの一般世帯。
- ※ 65 歳以上の世帯員のいる世帯は、H17までは 65 歳以上の親族のいる一般世帯。

## (3) 要介護認定者数の推移

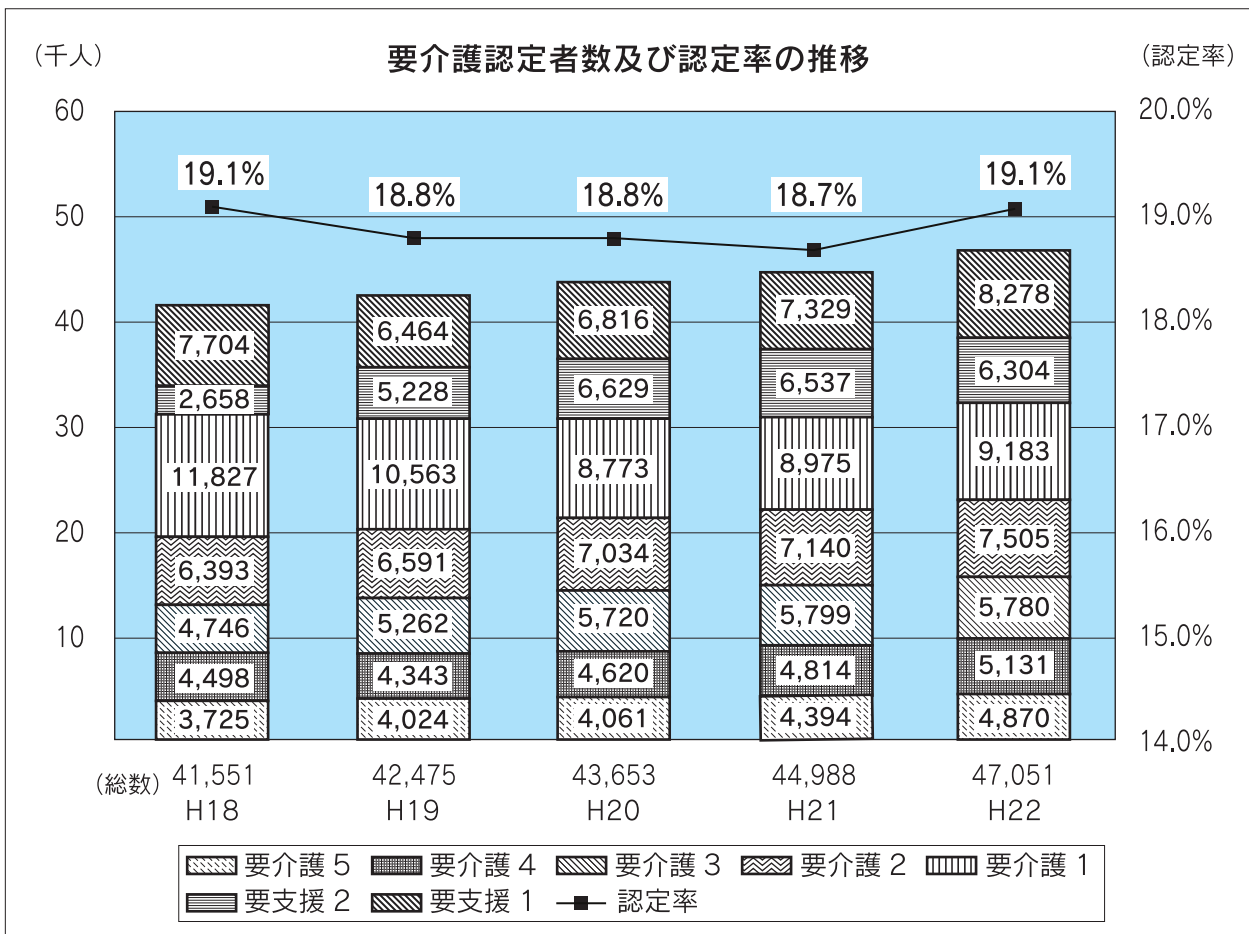
認定率（高齢者に占める要介護認定者の割合）は、平成 12 年度の介護保険制度開始以降、毎年上昇を続けていましたが、平成 18 年度以降はほぼ横ばいで推移しています。一方、高齢者人口の増加に伴い要介護認定者は増加が続いています。

### 要介護認定者の推移

	H18	H19	H20	H21	H22
要支援 1	7,704	6,464	6,816	7,329	8,278
要支援 2	2,658	5,228	6,629	6,537	6,304
要介護 1	11,827	10,563	8,773	8,975	9,183
要介護 2	6,393	6,591	7,034	7,140	7,505
要介護 3	4,746	5,262	5,720	5,799	5,780
要介護 4	4,498	4,343	4,620	4,814	5,131
要介護 5	3,725	4,024	4,061	4,394	4,870
要介護認定者数	41,551	42,475	43,653	44,988	47,051
認定率	19.1%	18.8%	18.8%	18.7%	19.1%

※ 値は年度平均。

※ H18 の要支援 1 には経過的要介護を含む。



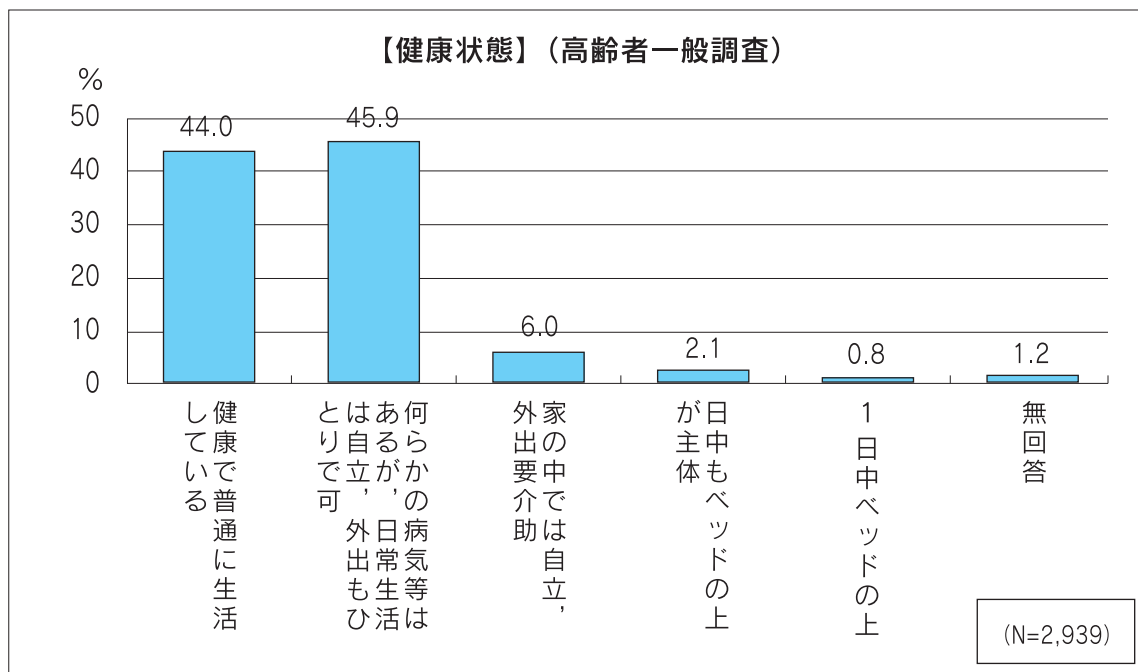
## 2. 高齢者実態調査に基づく現状

福岡市に在住する高齢者などの保健福祉に関するニーズや意識などを把握することを目的として、平成22年11月に「福岡市高齢者実態調査」を実施しました。

調査種別		調査対象者	有効回答
高齢社会に関する調査	高齢者一般調査	5,000人 市内在住の60歳以上の人から無作為に抽出	2,939人 (58.8%)
	在宅サービス利用者調査	5,000人 市内在住の要介護認定者のうち、介護保険在宅サービスの利用者から無作為に抽出 ※第2号被保険者(40～64歳)含む。	2,939人 (58.8%)
	在宅サービス未利用者調査	3,000人 市内在住の要介護認定者のうち、介護保険在宅サービスを利用していない人から無作為に抽出 ※第2号被保険者(40～64歳)含む。	1,588人 (52.9%)
	施設等サービス利用者調査	1,500人 介護保険施設やグループホーム入所者から無作為に抽出 ※第2号被保険者(40～64歳)含む。	990人 (66.0%)
介護支援専門員調査		794人 福岡市内の居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員	493人 (62.1%)

### (1) 健康状態（高齢者一般調査）

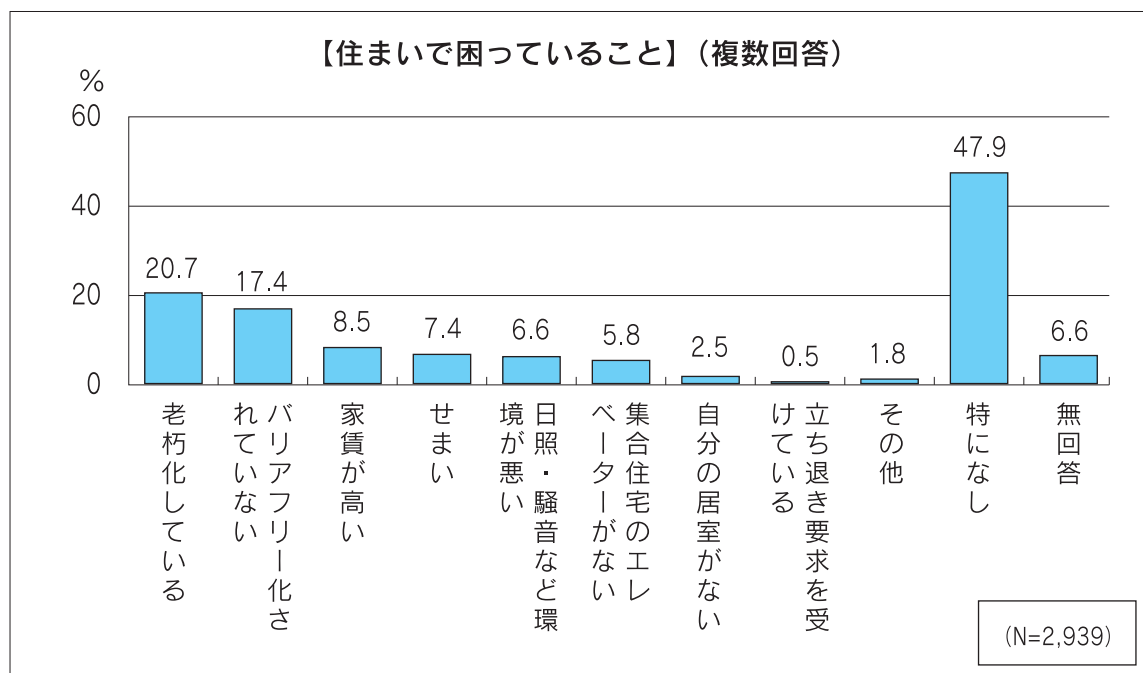
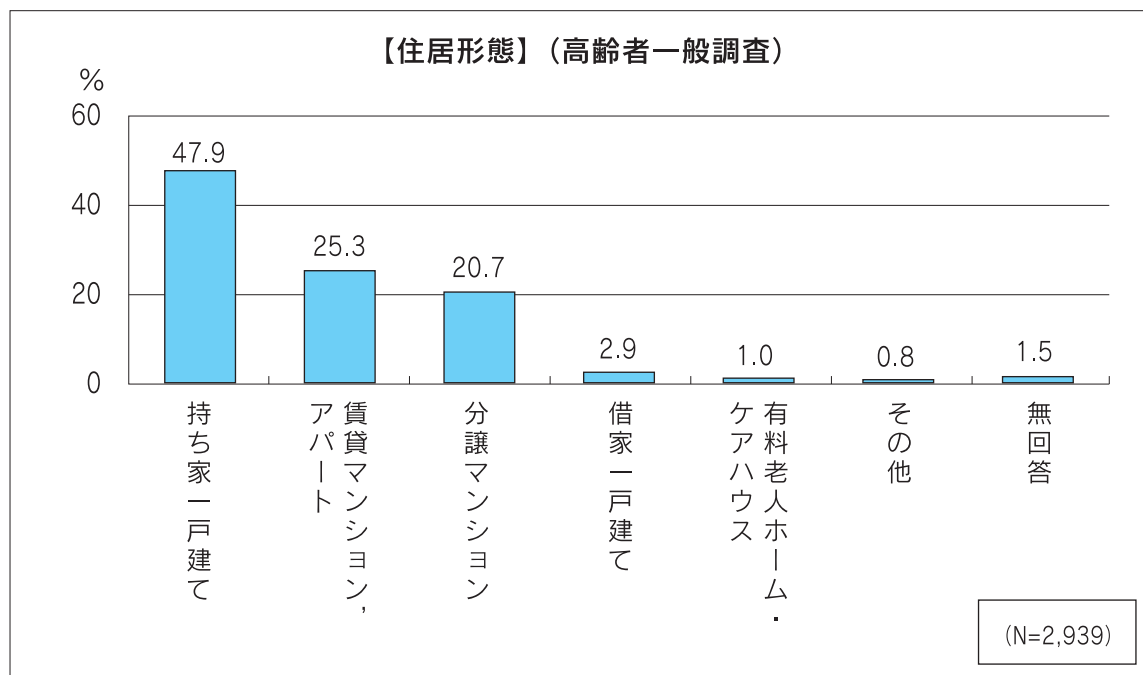
健康状態については、「健康で普通に生活している」(44.0%)、「何らかの病気等はあるが、日常生活は自立、外出もひとりでできる」(45.9%)となっており、合わせて約9割と、多くの人が概ね健康で自立した生活を送っています。



## (2) 住宅の状況（高齢者一般調査）

現在の住まいの状況については、一戸建てやマンションの持ち家所有が68.6%です。一人暮らしの場合、持ち家所有は41.8%で、借家や賃貸マンション、アパートなどの賃貸住宅住まいは54.1%です。

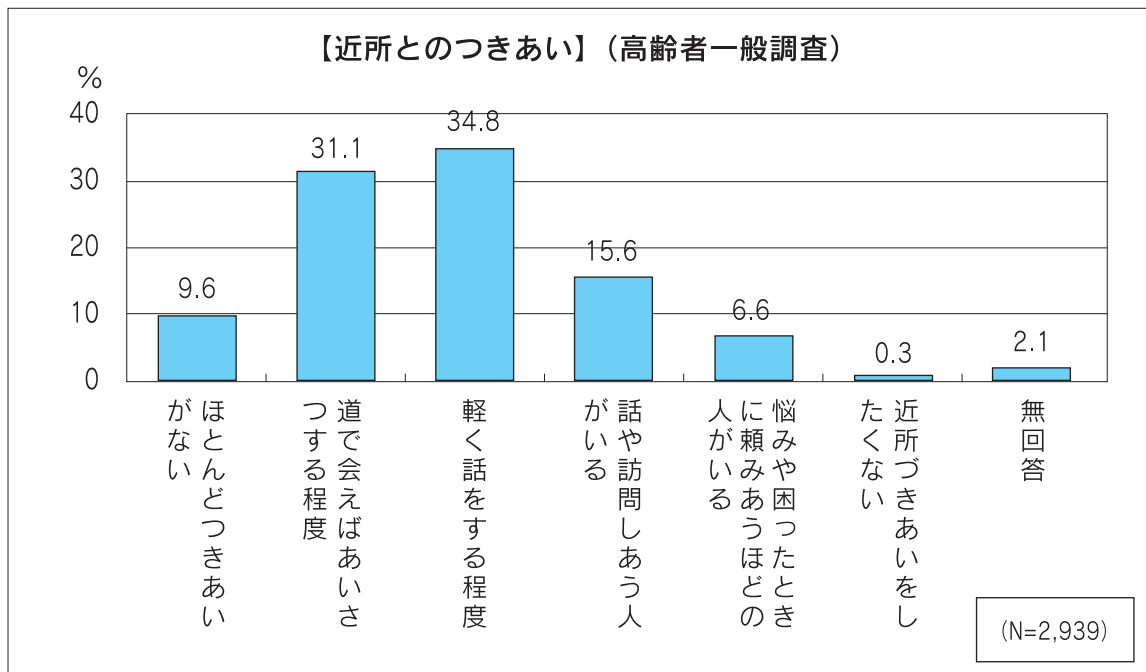
また、全体の約半数は、現在の住まいで「老朽化している」「バリアフリー化されていない」「家賃が高い」など、何らかの困ったことを抱えています。



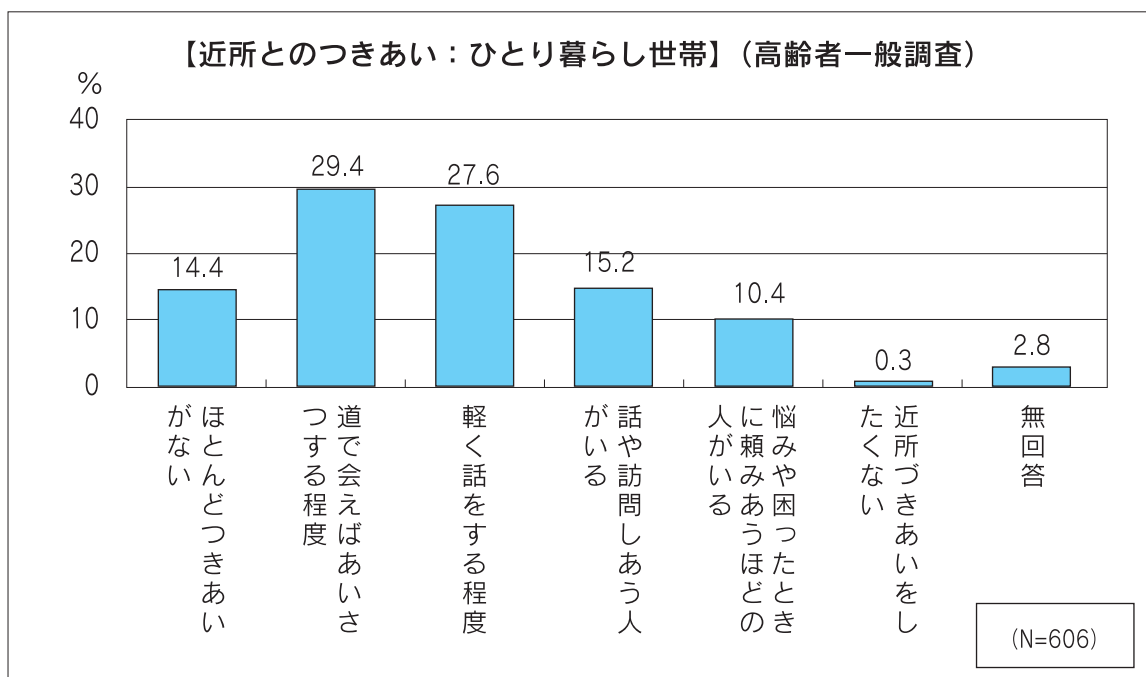
### (3) 近所との交流（高齢者一般調査）

近所の人たちとの交流については、「ほとんどつきあがない」（9.6%）と「道で会えばあいさつする程度」（31.1%）を合わせた 40.7%の人は、近所づきあいが少なく、地域コミュニティの結びつきが弱い状況となっています。

一方、「話や訪問しあう人がいる」（15.6%）と「悩みや困ったときに頼みあうほどの人がいる」（6.6%）を合わせた、近所づきあいが多い人は、22.2%となっています。



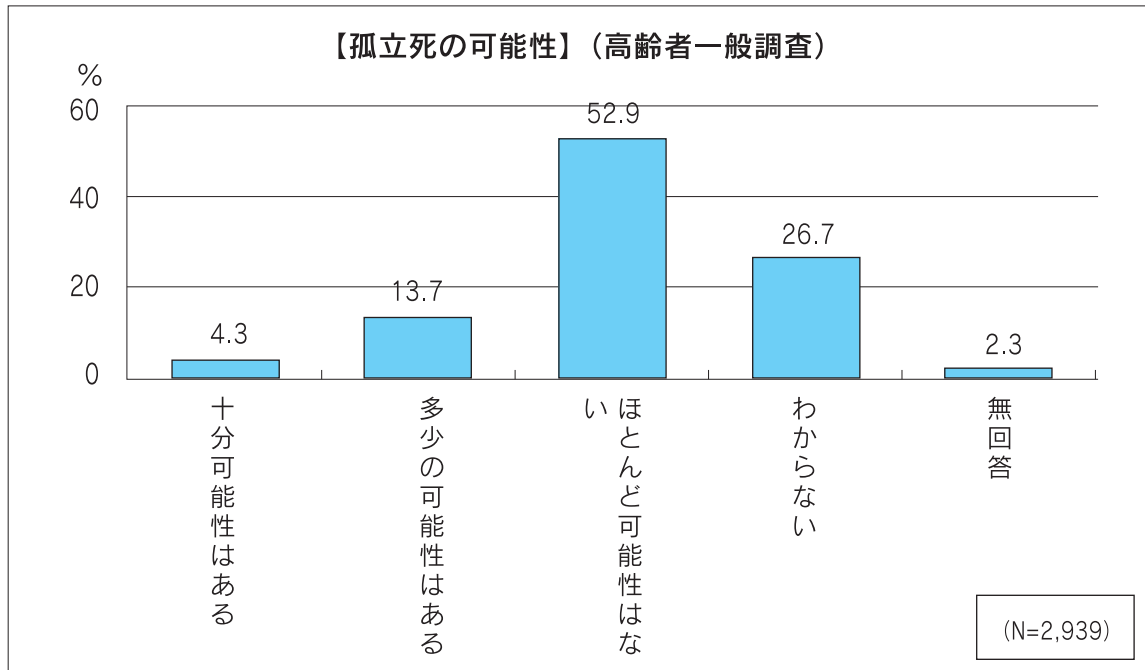
特に、一人暮らし世帯では、「ほとんどつきあがない」が 14.4%となっており、近所づきあいが少ない状況がうかがえます。





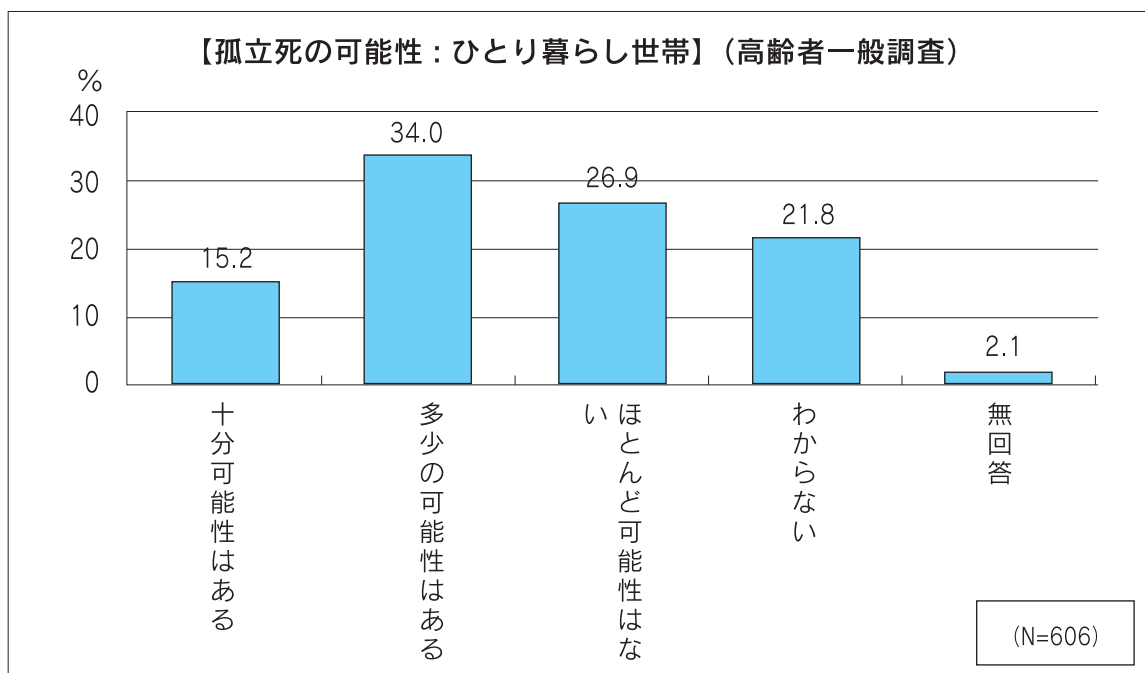
#### (4) 孤立死（高齢者一般調査）

自身が孤立死する可能性は、「ほとんど可能性はない」が過半数となっているものの、「多少の可能性はある」（13.7%）と「十分可能性はある」（4.3%）を合わせた『可能性はある』と考える人の割合が、18.0%となっています。



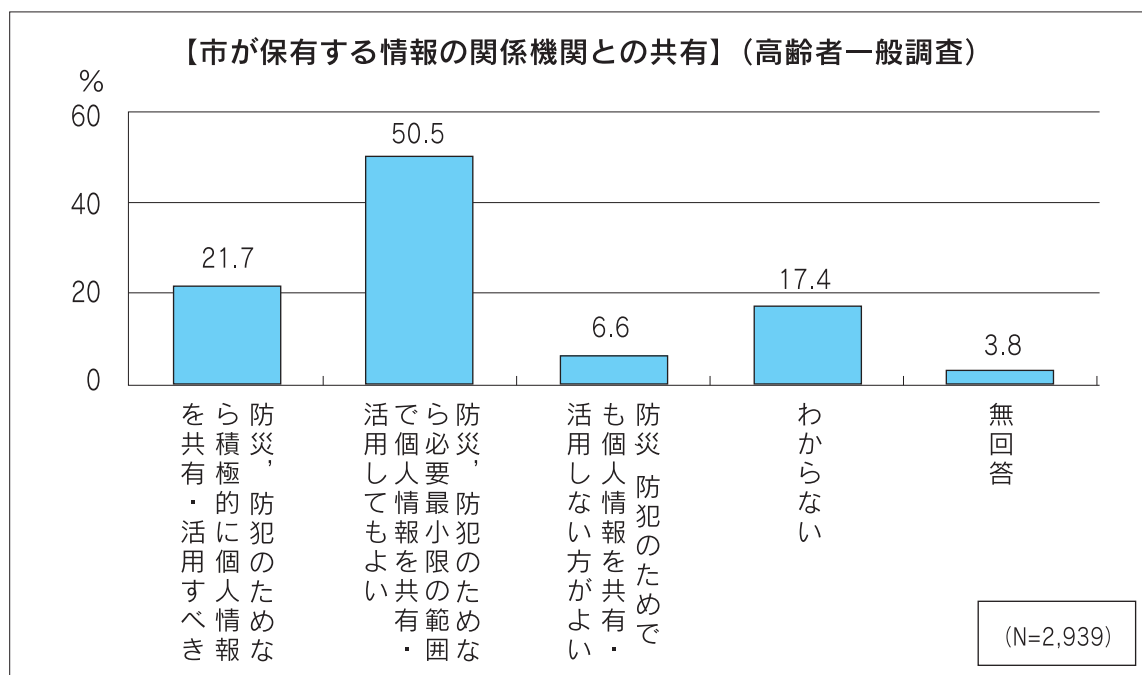
中でも、一人暮らし世帯では、約5割の人が、自身が孤立死する『可能性はある』と回答しています。

（「多少の可能性はある」（34.0%）、「十分可能性はある」（15.2%））



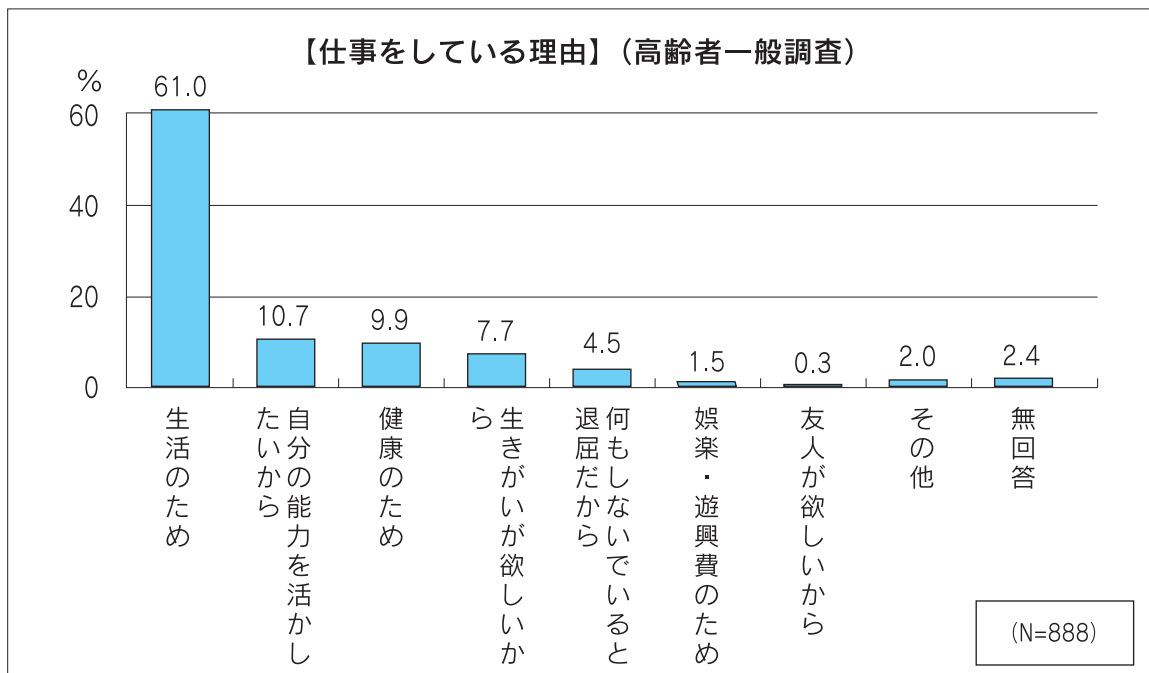
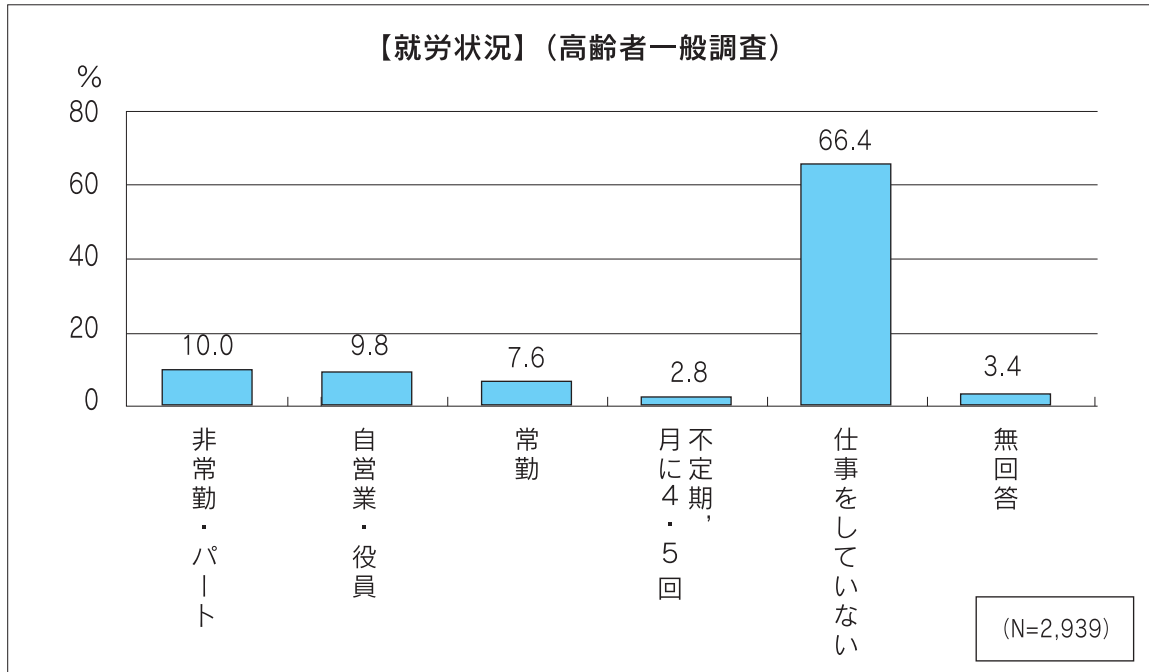
### (5) 個人情報の共有（高齢者一般調査）

市が保有する情報の関係機関との共有については「防災、防犯のためなら必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」が50.5%で最も高く、次いで「防災、防犯のためなら積極的に個人情報を共有・活用すべき」が21.7%となっており、約7割の人が防災・防犯のためであれば個人情報を共有・活用することに肯定的な意見を持っています。



## (6) 仕事（高齢者一般調査）

現在仕事をしている人は 30.2%で、前回調査時よりも増えています。仕事をしている理由は、「生活のため」が 61.0%で最も多く、次いで「自分の能力を活かしたいから」（10.7%）、「健康のため」（9.9%）と続いています。

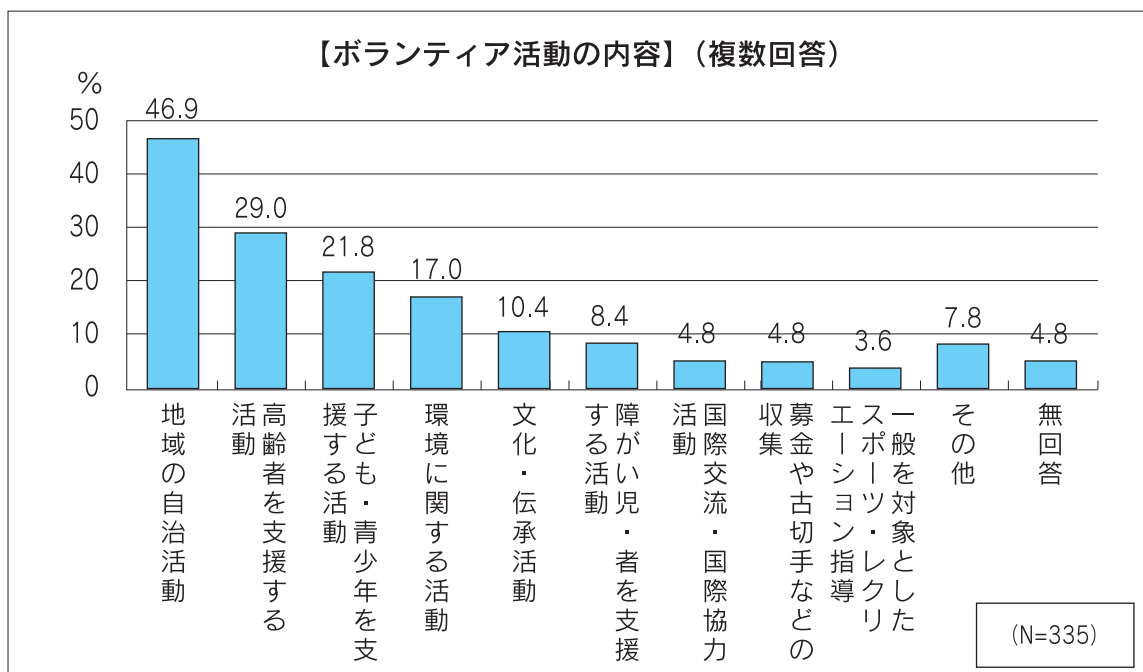
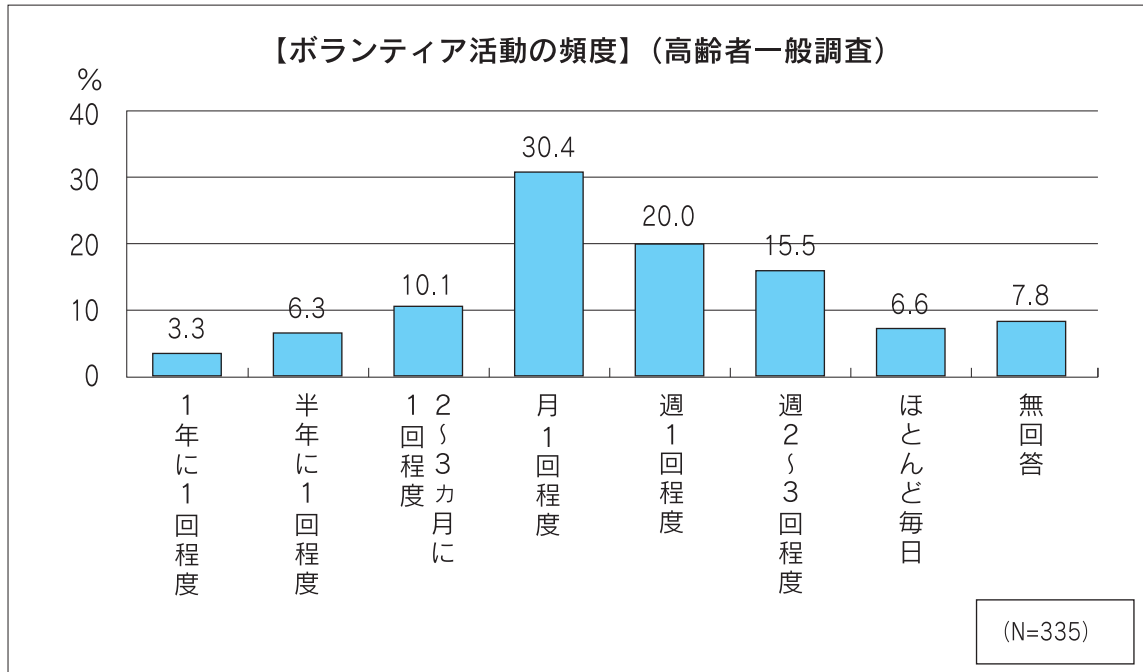


(7) ボランティア活動（高齢者一般調査）

現在ボランティアをしている人は 11.4%で、前回調査時からほぼ横ばいとなっています。ボランティア活動への参加状況は、「月1回程度」が 30.4%で最も多く、次いで「週1回程度」(20.0%)、「週2～3回程度」(15.5%)となっています。

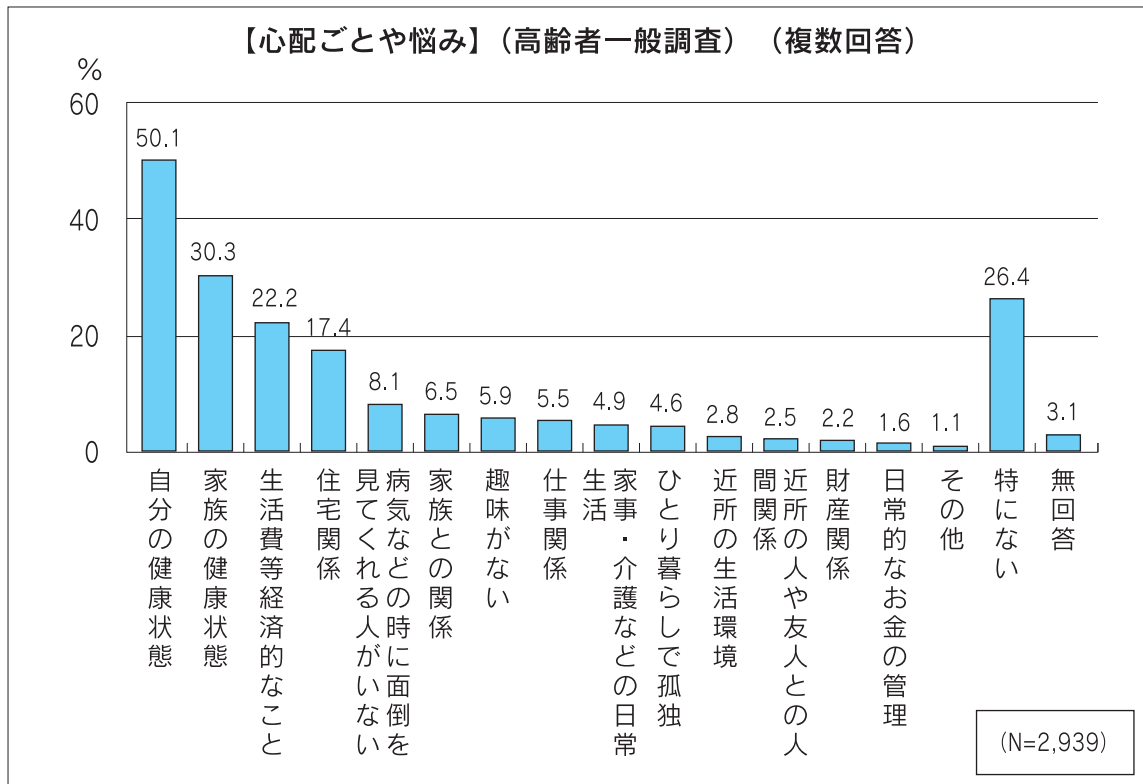
活動の内容は、「地域の自治活動」が 46.9%で最も多く、次いで「高齢者を支援する活動」(29.0%)、「子ども・青少年を支援する活動」(21.8%)などがあげられています。

また、現在はボランティア活動をしていない人の中でも、27.3%は参加意欲を持っています。

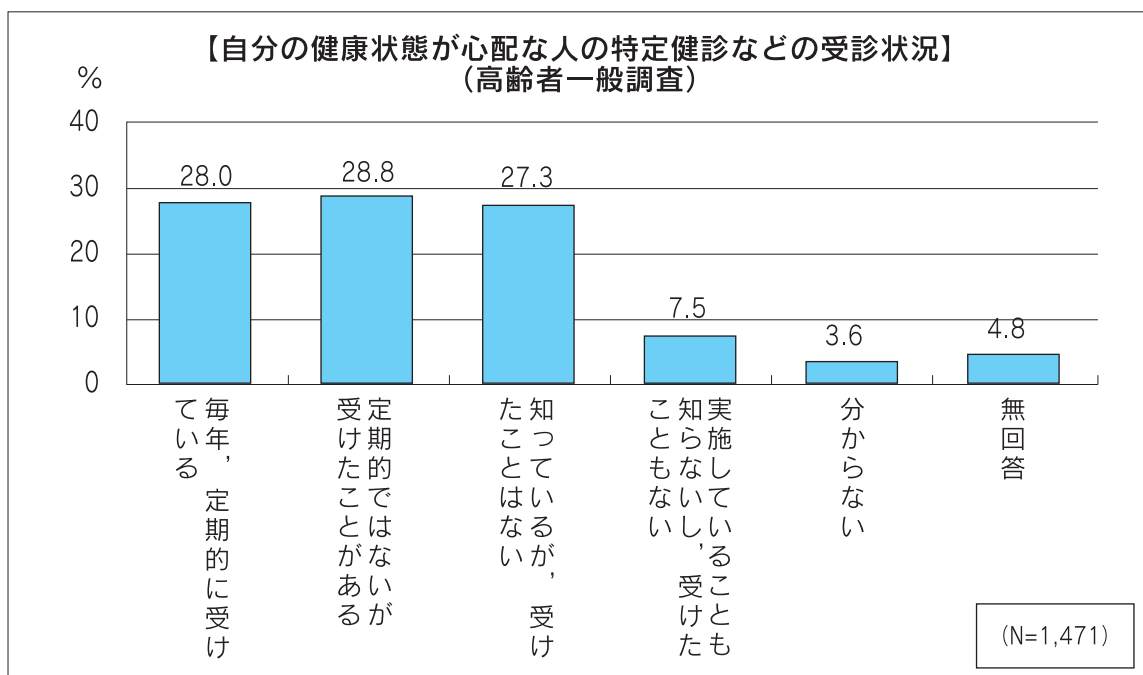


(8) 心配ごとや悩みごと (高齢者一般調査)

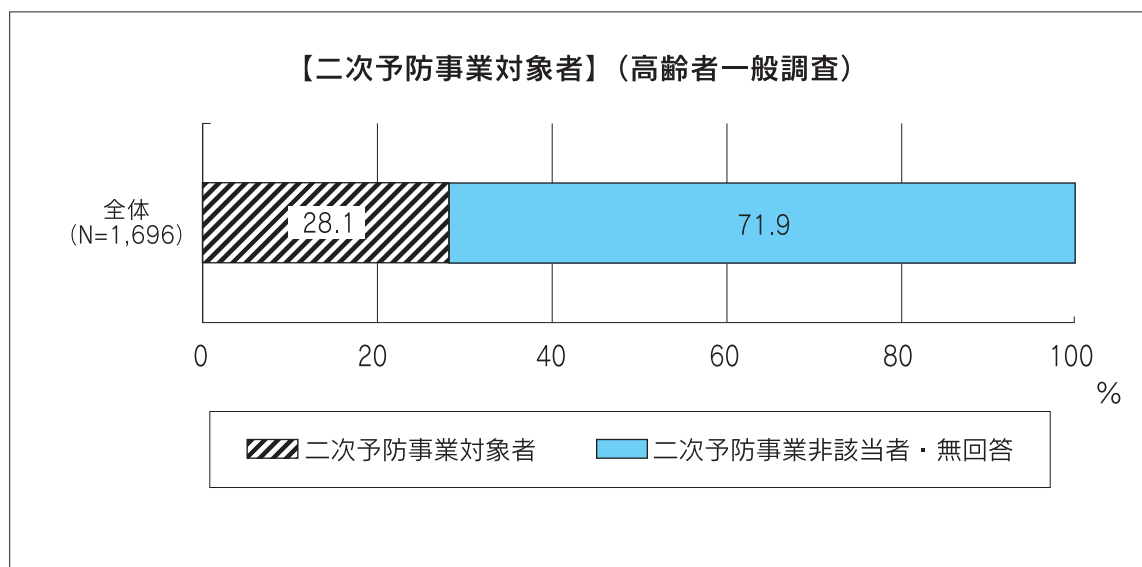
現在の心配ごとや悩みごとは、「自分の健康状態」が 50.1%で最も多くなっています。次いで「家族の健康状態」(30.3%),「生活費等経済的なこと」(22.2%),「住宅関係」(17.4%)などがあげられています。



しかし、心配や悩みごととして「自分の健康状態」をあげた人のうち、人間ドックや市が実施している特定健診などを「毎年、定期的を受けている」人は、28.0%にとどまっており、特定健診の受診に対する意識の低さがうかがえます。



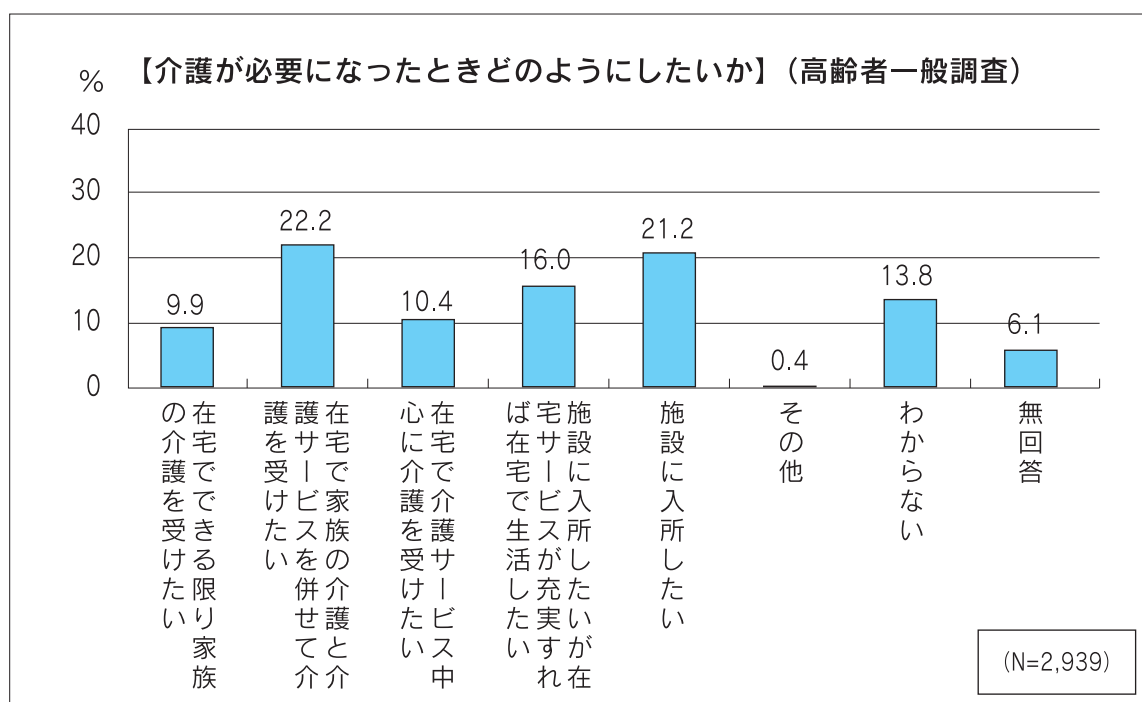
また、65歳以上の高齢者で、現在要介護認定を受けていない人を対象に、25項目からなる介護予防のための基本チェックリストに回答してもらったところ、生活機能に低下が見られる二次予防事業の対象の該当率は28.1%となっています。



**(9) 介護が必要になったときどのようにしたいか（高齢者一般調査）**

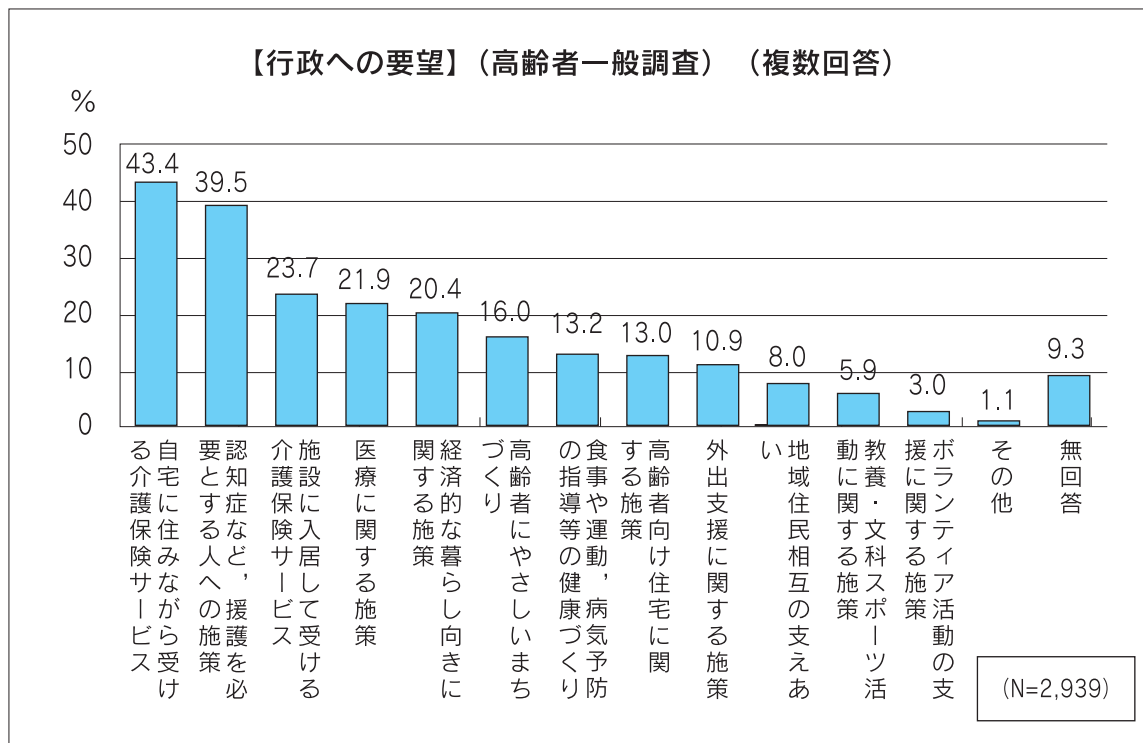
介護が必要になったときは、「在宅で家族の介護と介護サービスをあわせて介護を受けたい」「施設に入所したいが、在宅サービスが充実すれば在宅で生活したい」「在宅で介護サービスを中心に介護を受けたい」「在宅でできる限り家族の介護を受けたい」を合わせた、58.5%が『在宅で生活したい』と回答しています。

それに対し、「施設に入所したい」と考える人は、21.2%にとどまっています。



(10) 行政への要望 (高齢者一般調査)

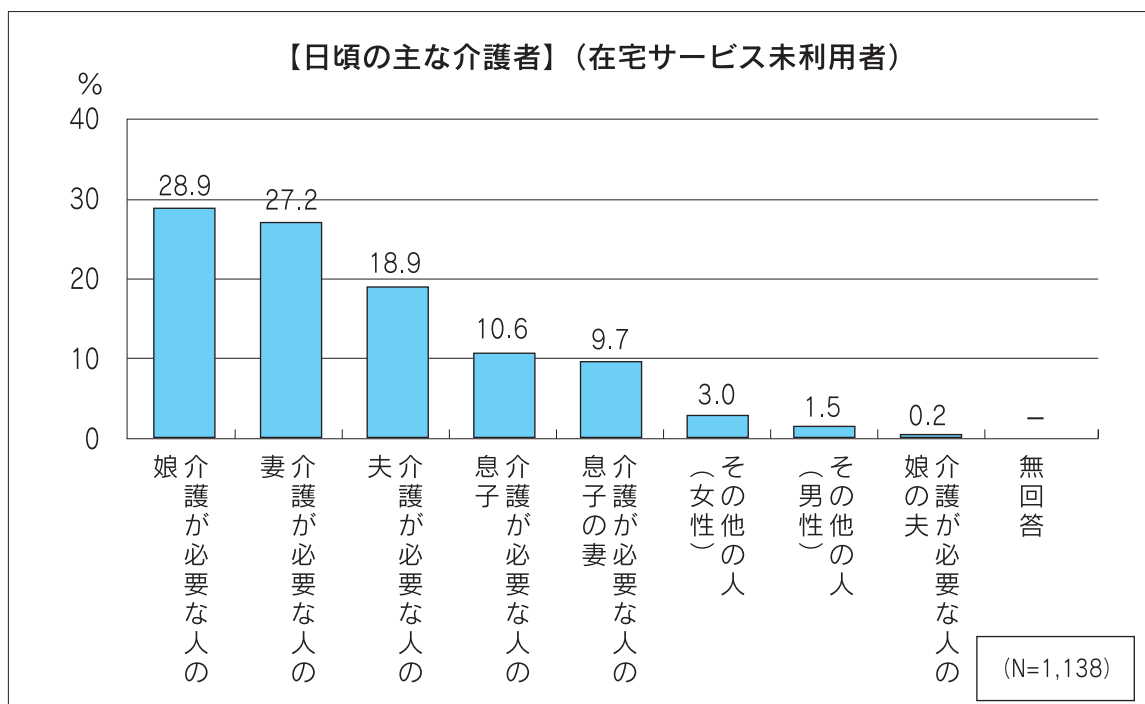
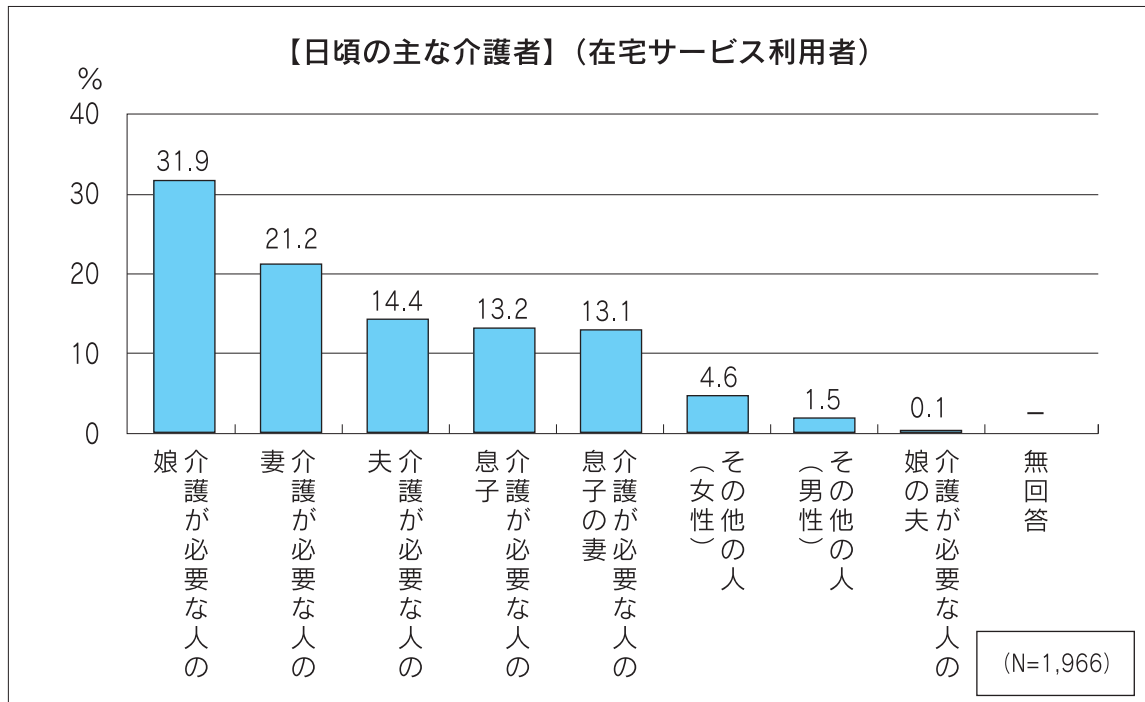
高齢者保健福祉施策の充実に向けて行政に特に力を入れてほしいのは「自宅に住みながら受ける介護保険サービス」が43.4%で最も多く、次いで「認知症や一人暮らしなど、援護を必要とする人への施策」(39.5%)、「施設に入居して受ける介護保険サービス」(23.7%)など、介護などの援護を要する人に対するサービスの充実が上位となっています。



(11) 日頃の主な介護者 (在宅サービス利用者調査・在宅サービス未利用者調査)

介護保険の在宅サービスを利用している人と利用していない人について、日頃の主な介護者について尋ねたところ、高い順に介護が必要な人の「娘」「妻」「夫」「息子」となっています。

在宅サービス未利用者では、「妻」や「夫」による介護の割合が、在宅サービス利用者より高くなっています。

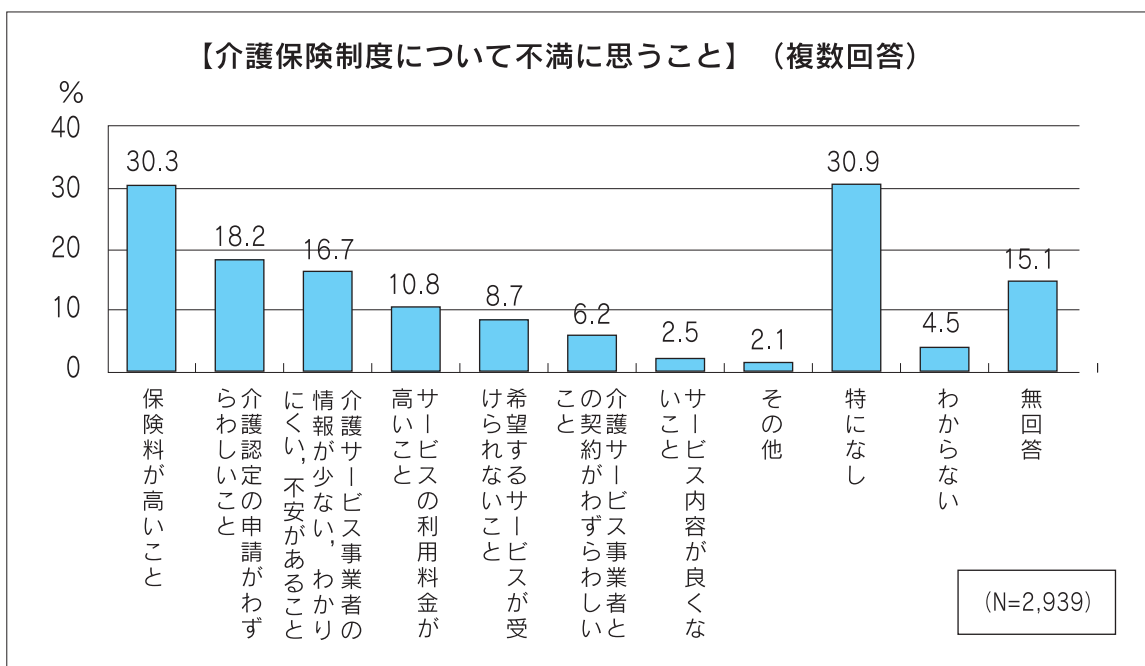
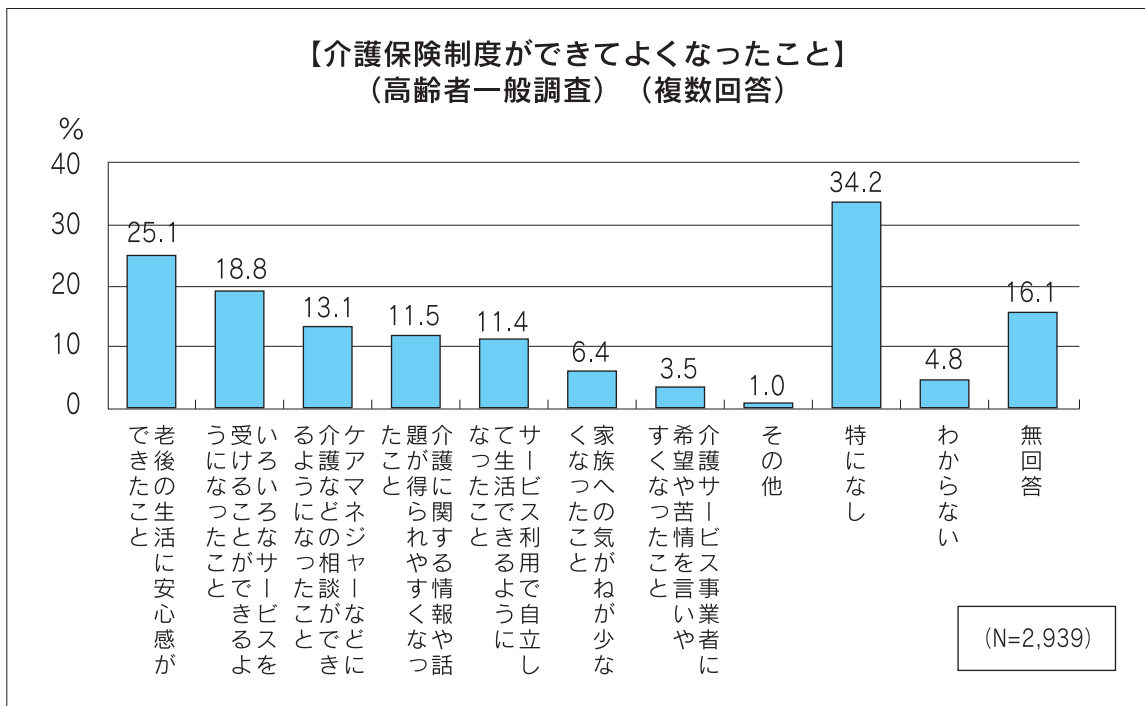




(12) 介護保険制度について (高齢者一般調査)

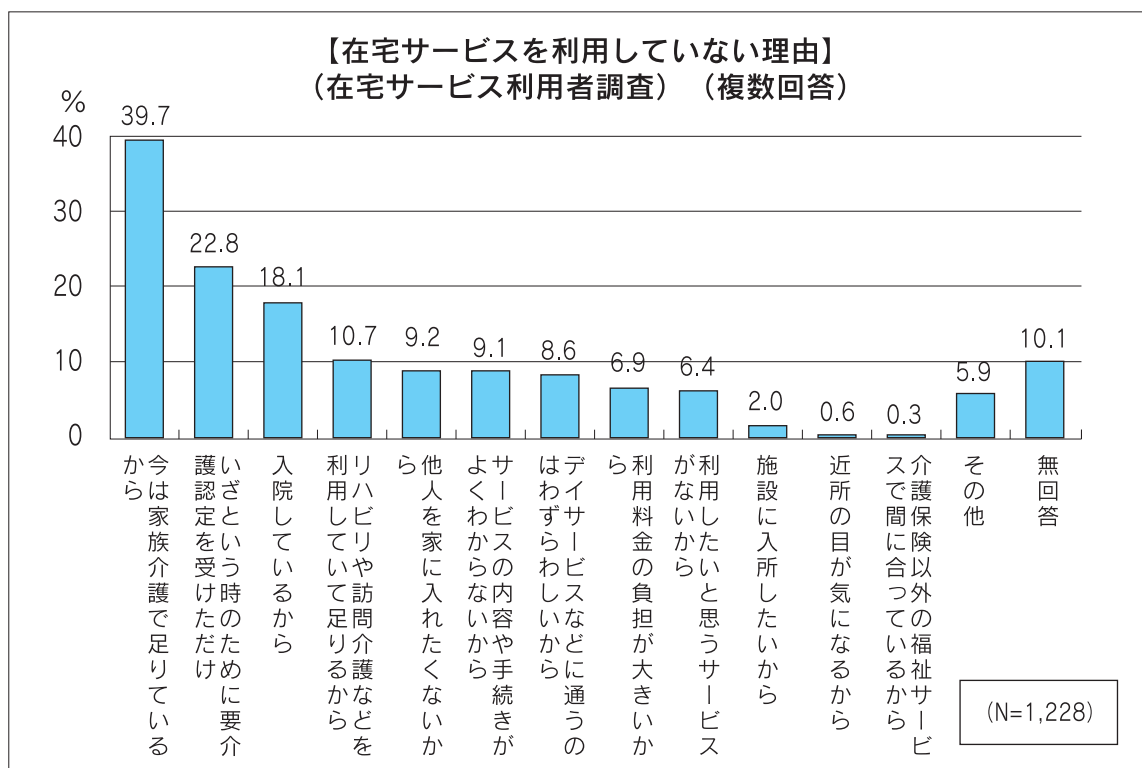
介護保険制度ができてよくなったことは「老後の生活に安心感ができたこと」が25.1%で最も多く、次いで「いろいろなサービスを受けることができるようになったこと」(18.8%)、「ケアマネジャーなどに介護などの相談ができるようになったこと」(13.1%)などがあげられており、全体の44.9%が介護保険の利点をあげています。

一方、不満に思うことは「保険料が高いこと」が30.3%と最も高く、次いで「介護認定の申請がわずらわしいこと」(18.2%)、「介護サービス事業者について、情報が少ない、わかりにくい、不安があること」(16.7%)などがあげられています。



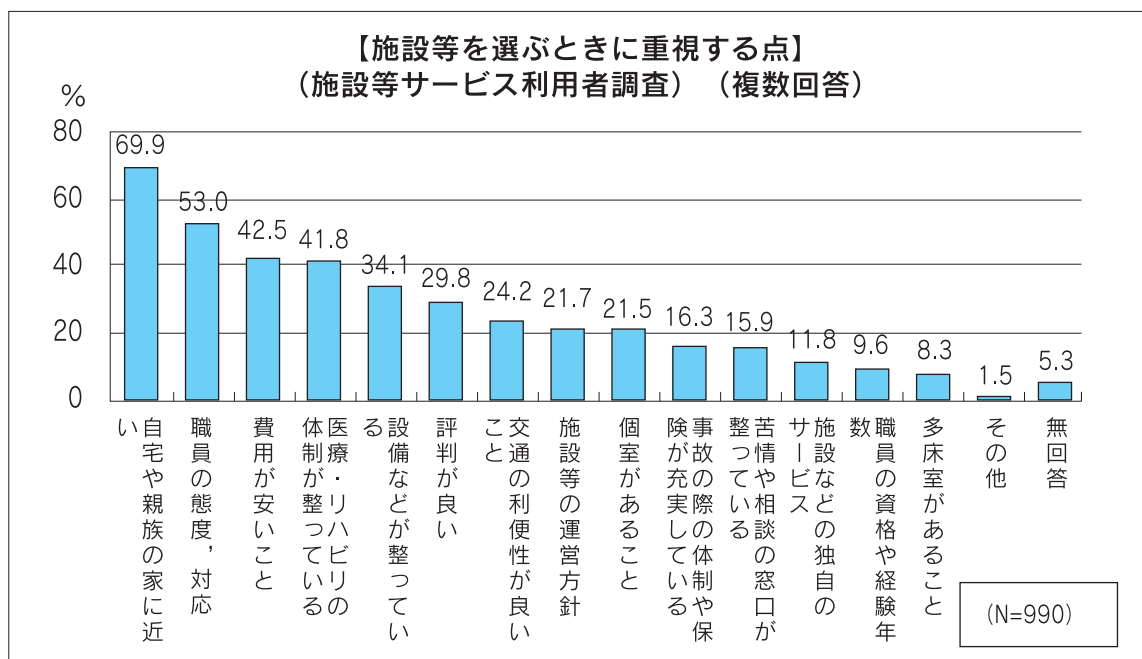
(13) 在宅サービスを利用していない理由 (在宅サービス未利用者調査)

要介護認定を受け、介護保険の在宅サービスを利用していない人にその理由を尋ねたところ、「家族の介護で足りているから」が39.7%で最も高く、次いで「いざという時のために要介護認定を受けただけ」(22.8%)となっています。



(14) 介護保険施設等を選ぶときに重視する点 (施設等サービス利用者調査)

現在、介護保険施設等に入所している人に、施設等を選ぶときに重視する点を尋ねたところ、「自宅や親族の家に近い」が69.9%で最も高く、次いで「職員の態度、対応」(53.0%)、「費用が安いこと」(42.5%)、「医療・リハビリの体制が整っている」(41.8%)、「設備などが整っている」(34.1%)となっています。



### 3. 高齢者を取り巻く課題

- 高齢者人口は年々増加しており、また、高齢者実態調査によると、自立した生活を送る高齢者が約9割にのぼり、高齢期を元気で生きがいを持って生活することができる支援体制の構築が望まれます。
- 生きがいを持ち自立して暮らしていくためには、心身の健康が大切であり、高齢者一人ひとりの状態に応じた、日常的、継続的な健康づくり・介護予防事業を引き続き推進していく必要があります。
- 高齢者と地域とのつながりが希薄になっており、高齢者の孤立化が懸念されることから、地域社会との日常的なつながりを持つことが重要です。高齢者が持つ豊かな知識や経験を活かし、活躍できる地域活動の場づくりや、社会参加活動への支援の充実などが求められています。
- 介護や医療の必要性が高くなっても、いつまでも住み慣れた家庭や地域で自立した生活が続けられるよう、きめ細かでバランスの取れた介護基盤の整備を行い、高齢者を地域全体で支えるネットワーク機能の充実を図る必要があります。

